



大東町大原地内で説明を受けるLCコミュニケーター



インターネットで北上サイトを紹介

世界的に例がないことにも触れ、北上サイトは、山や海など自然に恵まれ、景観もよく、研究環境に非常に適していると好印象を持った様子であった。

一方、「商業施設の」各コーナーや商品に英語表記があるといい、また、家族

視察に訪れたのは、バーバラ・ワームベインさん（ドイツ電子シンクロトロン研究所）、ペリン・ロワイヤドゥジュさん（フランス国立核物理素粒子物理研究所）、高橋理佳さん（高エネルギー加速器研究機構・KEK）の3人で、それぞれの研究機関でILCをはじめとするリニアコライダーの研究・開発やプロジェクトの現状などについて広報活動を行っている。

初日の3日は、一関市大東町の建設候補地や市中心部の商業施設を視察したほか、ILCの大型機材や部品の陸揚げ拠点として想定される宮城県気仙沼市の港を、また、東日本大震災からの復興の様子を理解するため陸前高田市を訪れた。翌4日は、奥州市の建設候補地や国立天文台VLB観測所を視察したほか、地質調査で採取したボーリングコア（岩の標本）で岩盤を確認。

視察を終え、ワームベインさんは「北上サイトがILCの立地にふさわしい地域であるということが分かった。地域のいたる所にILCの看板やのぼり旗があり、ILCに対する熱意を感じた」、ロワイヤドゥジュさんは「ILCの建設候補地を具体的に見ることで、非常によかった。この地域には世界遺産の平泉があり、ILCが建設されれば、文化と科学が調和した地域になる」、高橋さんは「今回の視察で2人には、海外の研究所から一関市までそれぞれ1人で来てもらった。新幹線は快適だが、乗車券と特急券の購入などシステムが複雑と感じたようである。日本では当たり前のことが海外ではそうではないことも多い」と感想を述べた。また、海の近くに立地している加速器施設が

**生活環境「完璧」との評価**  
LCコミュニケーター建設候補地視察

国際リニアコライダー（ILC）の広報活動を展開するLCコミュニケーターの3人は、2月3・4日の2日間、ILCの建設候補地である北上高地や周辺の生活環境を確認するため、一関市内などを視察した。一関市をはじめとする圏域の生活環境について「自然が豊かで食べ物もおいしい。市街地は公共交通機関もあり、（外国人研究者などが）住む場所としては完璧」と評価し、現地の様子をインターネットなどを通じて各国に情報発信していく考えを示した。



商業施設を視察するLCコミュニケーター

## Contents

- ◆ LCコミュニケーター建設候補地視察
- ◆ 大原自治公民館等連合会視察研修
- ◆ R I P ILC講演会
- ◆ 大東高校出前講座
- ◆ 各種イベントでILCをピーアール
- ◆ H26年度ILC関連予算
- ◆ 庁内連絡会議の設置
- ◆ ILCに関するQ&A

で訪れる外国人研究者も多いことから「保育所など子どもを安心して預けられる環境整備が必要」など課題を指摘した。

一行は視察後、県や市の担当者と意見交換を行い、海外に向けた情報発信のあり方や外国人研究者の生活の様子などについてアドバイスを送っていた。

## ILLCのまちづくりを考える

～大原自治公民館等連合会視察研修～

ILLCの加速器建設ルート  
の中心（衝突点）となること  
が想定されている大東町大原  
地区の自治会長で組織する大  
原自治公民館等連合会（菅原  
五三男会長）と大原公民館  
は、ILLC立地評価会議がIL  
LCの国内候補地として北上  
高地を選定したことを受け、  
ILLCを今後の地域づくりに  
生かそうと、昨年11月28日か  
ら29日にかけて、つくば市の  
KEKとつくば市役所を訪れ  
視察研修を実施した。

研修には、大原地区の自治  
会長ら20名が参加。



KEKで加速器を見学

初日はKEKを視察。到着  
後、施設の概要やKEKで行  
われている実験・研究を紹介  
するDVDを視聴し、その  
後、超伝導リニアック試験施  
設とBファクトリー実験施設  
を見学。ILLCで使用する測  
定機器は、視察したBELLE  
E測定器より一回り大きいこ  
と、また、ILLCではその測  
定器が2台必要なため、衝突  
点の地下には大空洞ができる  
との説明があった。また、実  
験の結果はインターネットを  
介して海外からも入手可能で  
あるため、実験施設の近くに  
いなくても研究は行えるとの  
説明があった。参加者からは  
「衝突点付近には、どのよう  
な施設ができるのか」など自  
分たちの地域に重ね合わせ意  
欲的に質問を行っていた。

2日目はつくば市役所を訪  
れ、「筑波研究学園のまちづ  
くりについて」などの説明を  
受け、その後、市役所周辺や  
工業団地、つくば駅周辺など  
を見学した。

市の担当者から「つくば市  
は、昭和38年度に研究学園都  
市建設が閣議了解され、今年  
度で50周年。市内では各種記  
念事業が実施されている」、  
また、「開発が始まった当初  
は、何も無いところに道路だ  
けが先行して整備された。最  
近になり、ようやく街の姿が  
できつつある。都市が形成さ  
れるには長い年月が必要」と  
の説明があり、参加者は、ま  
ちづくりに即効薬はなく、息  
の長い取り組みが求められる  
との認識を新たにしました。

つくば市の現在の課題とし  
ては、「近年、市内への定住  
者が増加しているものの、つ  
くばエクस्पレスの開業に伴  
い、都心部への所要時間が短  
縮され、賃貸住宅に住んでい  
た人が都心部から通勤するよ  
うになった。このため、市内  
の賃貸アパート等の需要が減  
少している」こと、「国家公  
務員宿舎売却後の跡地利用と  
その施設の環境悪化」などが  
挙げられた。

参加者からは「開発に着手  
する際、地域住民の反対はな



つくば市役所での研修の様子

かったのか」など、住民と行  
政の関係についての質問が多  
く発言された。市の担当者の  
説明では「開発は国主導で  
進められていたが、最近にな  
り、ようやく市が携わるよう  
になった。市では、当時の詳  
しい状況は分からない。しか  
し、当時反対した地域は手つ  
かずで残っており、逆に地域  
からの要望で、最近になり開  
発が進んだ地域もある」との  
ことであった。

大原地区ではこれまで自  
治会単位でILLC講演会を実  
施するなど、積極的にILLC  
に関する勉強を行ってきた  
が、今回の視察研修はILLC  
に伴うまちづくりについて考  
えるきっかけとなり、ILLC  
に対する理解が一層深まった  
研修であった。



つくば市役所前で参加者の集合写真

## 地元企業の参画による「シリコンヒルズ」の実現

～RIP ILLC講演会～

一関市及び平泉町の異業種  
交流団体・両磐インダストリ  
アルプラザ（RIP）と一関  
商工会議所が主催するILLC  
講演会が、昨年12月2日、市  
内萩荘の一関工業高等専門学  
校で行われ、東北大学・岩手  
大学客員教授で、KEK名誉  
教授の吉岡正和氏が「国際リ  
ニアコライダー計画と東北の  
未来」と題し講演を行った。

会員企業や市民約120  
人が聴講。講演で吉岡教授  
は、研究機関と連携し新産業  
を創出した米国のシリコンバ  
レーを例に挙げ、この地域に



講演をする吉岡教授



聴講する参加者

ILCを核とした「シリコンヒルズ」をつくりたいと語った。また、ILCの建設・運用には地元企業の積極的な関わりが不可欠とし、KEEKから仕事を受注している中小企業の事例を紹介するなど「来るのを待つのではなく、自ら動き、仕事を取りに行つてほしい」と呼び掛けた。さらに「日本初の国際プロジェクトであるILCの実現により、若い世代が希望を持てる『東北ルネサンス』を世界に発信していく。そこから東北の未来も見えてくる」と強調。

会場からは「日本学術会議はILC建設を『時期尚早』としている。また、建設費が

巨額で他分野の研究予算に影響を与えるのでは」との質問があり、吉岡教授は「今結論を出すのは時期尚早ということである。国として初めてILCの調査検討費を計上し、国が研究者と一体となり検討していく。予算の取り合いはあつてはならない。新しい分野・技術の創造により、今ある科学分野にも好影響を与える」と回答。また、「ILCの実現には地域の理解が重要であり、ILCの研究結果などをもつとピアーアルすべき」との意見に対して、「行政によるピアーアルだけでなく、今日参加の皆さんからもどんどん情報発信して欲しい」と改めて地元企業の参画を求めた。

## 地域に生きる

〜大東高校出前講座〜

1月22日、「地域に生きる」を主題に生徒が地域を理解し、将来のあり方を考えることを目的とした出前講座が、県立大東高校で行われ、勝部市長が「ILCがやってくる」と題し講演を行った。1年生約150人を前に勝部市長は、ILCが実現した



出前講座で講演する勝部市長

場合の地元における雇用の場（仕事）について「ILCに携わる職はいろいろある。直接携わる職としては、科学者や研究者のほか、ILCの建設工事や機器の組み立て、製造、メンテナンスを行う技術者などがある。間接的に携わる職としては、国際研究所の事務職員や宿泊施設をはじめとする研究所内の食堂員。さらには研究所内の食堂の調理員や食材の納入業者など多岐にわたる」と述べ、ヨーロッパにあるCERNの例を示しながら、ILCに伴う地域の変化について語った。参加した生徒は、ILCに携わる仕事をしている将来の自分たちを想像しながら、講演に熱心に耳を傾けていた。

## ILCをピアーアル

〜各種イベントでパネル等を掲示〜

市では、ILC計画について理解を深め、東北実現に向けた機運を醸成するため、新年賀詞交換会や産業まつりなどさまざまなイベントでILCのパネル・のぼり旗などの掲示やILC紹介DVDの上映などを行っています。

1月12日、一関市総合体育館「ユードーム」で開かれた「平成26年一関市成人式」の会場にもパネル等を掲示し、新成人の皆さんにILCをピアーアルしました。

成人式に出席した國松佑丞さん（20・仙台市）は「世界的な大規模実験施設が、地元



成人式でのパネル等の掲示



企業情報交換会での出展の様子

にできるのは光栄なこと。ILCをきっかけに過疎化や高齢化が進む地域が活性化し、潤ってほしい」とILCの実現に大きな期待を寄せていました。

また、2月19日、市内を中心としたものづくり企業59社が参加し、ベリーノホテル一関で行われた「企業情報交換会 in いちのせき」では、参加した企業や来場した多くの市民が、ILCのパネルや紹介DVDに目をとめ、「ILC実現の可能性は」「会社で持っている技術がILCにどのような生かせるか」「ILCではどのような工事が行われるのか」などの質問を寄せ、ILCへの関心の高さがうかがわれました。

# ILCを まちづくりの基軸に

～H26年度市当初予算～

ILCプロジェクトを一関発展の基軸と位置づけ、「ともに拓こう ふるさと新時代」と銘打った平成26年度一関市当初予算のうち、ILC関連予算の主なものについてお知らせします。

- ① ILC調査事業  
(1,242万円)
- ▼(仮称)学術研究都市構想策定委託(1,000万円)
- ▼KEK等視察旅費  
(216万円)
- ② 普及啓発事業  
(1,128万円)
- ▼ILC講演会・セミナー開催  
(186万円)



H25年度に行ったILC特別授業

- ▼ILCニュース発行  
(208万円)
- ▼普及啓発用チラシ・バッジ等作製(203万円)
- ▼英語対応ILCホームページの作製(200万円)
- ▼ILC看板の設置等  
(220万円)

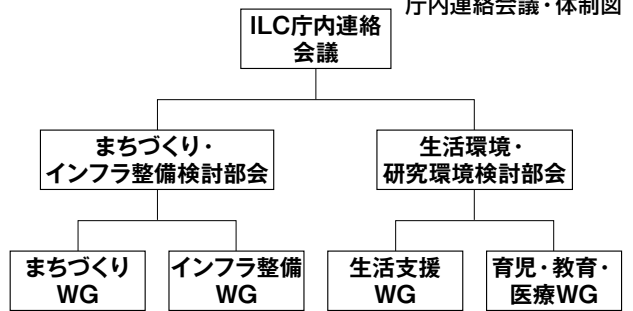
このほか、ILCに関連し、次代を担う子どもたちが国際感覚を身に付けるため、▼児童生徒が地域について理解を深め、地域の宝などを国内外に情報発信する事業、▼筑波研究学園都市への中学生最先端科学体験研修事業、▼英語での生活を基本とする英語の森キャンプ事業などを実施します。

また、▼外国語指導助手の増員、▼理科学習支援員の配置、ILC関連産業への地域企業の関わりや参入の促進を図るため、▼科学技術アドバイザーを設置します。

## ILC庁内 連絡会議設置

市は、ILCに関する庁内の情報共有とILC実現に向けた事業の調整協議を行う「ILC庁内連絡会議」を、昨年12月3日付で設置した。庁内連絡会議は、市長、副市

庁内連絡会議・体制図



WG=ワーキング・グループ

長、部長級の職員等で構成し、連絡会議の下に所掌事務について調査検討を行うため、課長級の職員による2つの検討部会を、さらに詳細の検討を行うため、係長級によるワーキンググループを設置した。

第1回連絡会議は12月9日に開催し、あいさつで勝部市長は「ILCのような国際プロジェクトは、国内に参考となる事例はなく、今まで経験したことのないまちづくりの進め方を考えていかなければならない。全庁的な視点で取り組みが必要」と述べ、市が一丸となって推進していくことを

強調。会議では、ILC計画の現状や最近の動向のほか、ILC実現に向けた課題などを報告した。

## ILCを知ろう (よくある質問)

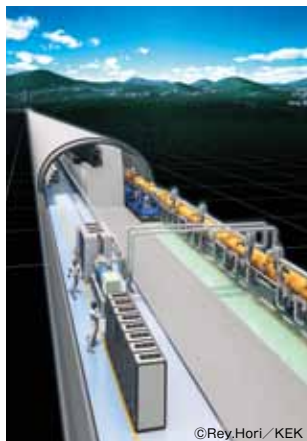
ILCに関する講演会などで多く寄せられる質問を紹介します。

▼ILCはいつできるの？

建設候補地の評価や日本政府の意思決定後、政府間協議が行われ、2010年代半ばに建設地が決定します。その後、建設に10年ぐらいかかるため、完成は2020年代後半と予想されます。

▼ILCは放射線が発生し、危険ではないの？

ILCの加速器は、医療用X線撮影装置やがん治療装置と同様に、運転中は加速器内で放射線が発生します。このため、放射線がトンネルから漏れ出さないよう法律に基づく十



©Rey.Hori./KEK

発行 岩手県一関市

編集 企画振興部 ILC推進室

〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号

TEL 0191-21-8641

FAX 0191-21-2164

URL <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

E-mail [ilc@city.ichinoseki.iwate.jp](mailto:ilc@city.ichinoseki.iwate.jp)

分な遮へい対策が行われます。なお、ILCの加速器で発生する放射線は滞留性がないため、ただちに消滅します。また、運転を停止すれば放射線は発生しません。

▼自然への影響はないの？  
ILCは、ほとんどが地下施設のため自然環境に与える影響は極めて小さいと考えられております。また、貴重な動植物の生息地を避けるとともに自然環境の調査を行い、影響は最小限にとどめます。

▼電力は不足しないの？  
ILCの運転に必要な電力は16万キロワット(将来的には23万キロワット)で、今の電力供給で十分間に合うと確認されています。また、電力消費が多い時期には運転を停止します。